



立川第八中学校

宇宙船

平成29年度 第5号

URL <http://www.tachikawa.ed.jp/jh08/>

〒190-0013 立川市富士見町7-24-1 TEL(042)526-2007 FAX(042)529-1180

大変な時、本当の優しさを考える

校長 川崎 達也

夏休みが終わり通常の学校生活に戻って来ました。勉強を頑張った！部活動を頑張った！いっぱい遊んだ！家族との時間を大切にしたい！しっかり計画通りにいった！なかなか上手いかなかった！・・・皆さんそれぞれにそれぞれの夏休みがあったはずですよ。

始業式で気持ちの切り替えが大切であり、上手いことは自信としてこれからも伸ばし、上手いかなかったことは経験としてこれからの「糧」とすることの大切さをお話ししました。皆さんは大人と違って、結果よりプロセスが大事な時期です。つまり失敗しても「これからの学校生活を頑張るぞ！」とまた頑張れば良いのです。なぜなら皆さんが経験した全てが、これからの人生の大切な財産になっているのですから。

そして「なぜ9月1日に防災訓練があるか？」をお話ししました。この訓練は今から93年前の1924年9月1日に発生し10万人以上の方が亡くなった関東大震災がきっかけになっています。日本はその後様々な災害に見舞われています。1959年に5,000人以上が亡くなった伊勢湾台風、1995年に6,000人以上が亡くなった阪神淡路大震災、そして皆さんも記憶にあると思いますが6年前2011年の東日本大震災では18,446人の尊い命が失われています。

実は東日本大震災の同じ年には、紀伊半島で台風12号による大雨で洪水や土砂崩れが発生し、死者・行方不明100名を超す大惨事が起きているのです。地震・火山の噴火・台風・洪水など日本では常に自然災害が隣り合わせと言っても過言ではありません。「自然の猛威は防ぎ様が無い」と言われますが、度重なる災害の大きさに言葉を失ってしまいます。

映像をはじめとして情報が高度に発達している現代では、自宅などに居ながら災害の悲惨さを目の当たりにすることが出来ます。しかしそれがいつの間にか現実のものとして捉えられず、バーチャル世界を見ているようになってしまっているのではないのでしょうか？関東地方はいつ大震災が来てもおかしくないと言われ続けています。今一度、決して他人事ではないという意識を持つ必要があると考えます。

震災直後のニュースを思い出しました。福島原子力発電所の事故は今も多くの犠牲と被害をもたらし、6年経った今でも事故の終息のために多くの方々が作業を続けています。特に被災直後は現場の状況も分からず手探りの状況でした。電力会社やその関連会社の社員の方々はもちろん、メーカー・自衛隊・消防・警察と、決死の覚悟で現場に向かった人達が数多くいらっしゃいました。その中の一人の方の記事です。

～時事通信 平成23年3月16日(水)4時56分配信～ 【原文のまま】

「使命感を持って行く」電力会社社員、福島へ 定年前に自ら志願

福島第1原発の事故で、情報の遅れなど東京電力の対応に批判が集まる一方、最悪の事態を避けるため、危険を顧みず作業にあたる同社や協力会社の社員もいる。

地方の電力会社に勤務する島根県の男性(59)は、定年を半年後に控えながら、志願して応援のために福島に向かった。会社員の娘(27)によると、男性は約40年にわたり原発の運転に従事し、9月に定年退職する予定だった。事故発生を受け、会社が募集した20人の応援派遣に応じた。

男性は13日「今の対応で原発の未来が変わる。使命感を持って行きたい」と家族に告げ、志願したことを明らかにした。話を聞いた娘は、家ではあまり話さず、頼りなく感じることもある父を誇りに思い、涙が出そうになったという。

東京電力の受け入れ体制が整った15日朝、男性は自宅をたった。特別なことにしたくないと考えた娘は見送りはせず、普段通りに出勤した。「最初は行ってほしくなかったが、もし何かあっても、自分で決めたことなら悔いがないと思った」と話し、無事の帰宅を祈る。

男性の妻(58)は「彼は18歳の時からずっと原発の運転をしてきた。一番安全なものをやっているという自信があったんだと思う」と話す。出発を見送り、「現地の人に安心を与えるために、頑張ってきて」と声を掛けたという。

震災直後の状況ですから、情報がほとんどない中でのことです。また、現在の状況とは違う部分もあります。しかし、こんな決して名前が出なくとも使命感を持った方の頑張り、そしてそれを支えた家族の心は忘れてはならな

いと考えます。自分の家族を失ったのに被災者のために奔走する警察官や消防士・消防団員。被災者には温かい御飯を提供するのに、自分達は缶詰の御飯だけで過ごした自衛隊員。命の危険を顧みず原発事故終息に取り組んだ電力会社の現場社員や関連会社員。直接の支援だけでなく物資輸送に奔走した運輸関連社員。被災した鉄道路線や水道・ガスなどのライフラインの復旧のために全国から集まった技術者。震災直後、そして今現在も被災地の様々なところで、大きな使命感を持った多くの活躍が続いていることを決して忘れてはなりません。

2011年は悲しいニュースばかりだったのですが、そんな中で将来を明るくさせるニュースも目にしました。東北大学が東北地方の大学生に「何のために仕事に就くのか?」というアンケート調査をしたところ、震災前までは「お金のため」というのが1番だったのが、震災後は「人の役に立つため」に変わったそうです。未曾有の大震災は尊い多くの命や財産を奪ったのですが、人の心までは奪うことは出来ず、それより人の持つ「心」に火を灯したとも言えます。

社会は人と人との関わりで出来ています。自然災害をはじめとして人の力では防ぎ様のないこともたくさんあります。しかし人は力を合わせて困難を克服してきました。これからの未来を創るのは君達です。そしてそこには必ず「志」と同時に「思い」「想い」が必要です。同時に人と人が集まって成り立つ社会に「優しさ」がプラスされれば、素晴らしい人の輪が広がっていきます。

時として人は思い通りにならない時に、不平や不満を抱きます。しかし一歩下がって考えると、その不平や不満は意外と小さいものだったりするものです。皆さんには大局を見る力を備え、発揮できるようになってもらいたいと思っています。まずは目の前にある今の学校や家庭の生活を頑張ることで、自分のためだけでなく、社会全体を考え、明るい未来を創る力の基礎を身に付けていってほしいと願っています。

創立40周年記念行事 航空写真撮影の様子(7月14日)



国際総合企画さんのご協力を得て、航空写真を撮影しました。合図のもとに一齐に画用紙をもった腕を伸ばしました。最後には、飛行機に向かい手を振りながら見送りをしました。そのあと、クラス写真を教室で撮りました。

交通安全教室の様子(7月14日)



交通安全教室が行われました。スケアード・ストレイトとは、「恐怖を直視させる」という意味で、受講者に「恐れ」を感じさせ、それにより社会通念上望ましくない行為をさせないようにする教育手段の一つです。実際に交通事故の場面を目の当たりにして生徒たちも交通事故の怖さを実感しました。幾つかのキーワード「アイコンタクト」「死角」などを思い出し、安全行動を心がけましょう。

救急救命講習会の様子(7月19日)



3年生が立川消防署の協力のもと、救急救命講習会を実施しました。心臓マッサージやAEDの使い方について学習しました。今年度から立川市民科として救急救命を行うことになりました。実際にこのような場面に遭遇したときは、慌ててしまうことが多くありますが、学んだことを活かせるようにしましょう。

【9月の行事予定】

- ・1日(金) 始業式
- ・12日(火)～15日(金) 職場体験(2年)
- ・19日(火) 朝礼
- ・22日(金) 生徒会選挙
- ・28日(木)～29日(金) 中間テスト